

今期の審議テーマについて（案）

1 審議テーマ

これからの市民センター事業の可能性について（調査研究）

2 経緯

前期の公民館運営審議会では、「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」の改定に向けた検討を行い、ご提言をまとめていただきました。この間、近年の社会情勢の変化や、仙台市や国の動向について整理するとともに、社会の変化が速くなり、市民の意識も変わっている中で、市民センターの役割は常に考えていくことが必要であるとの議論もなされたところです。

令和7年10月の「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」改定では、これまでの施設理念を堅持しながら、市民センターにおいて実施すべき事業のあり方について記載内容の充実を図ったところであり、今後は具体の事業に反映させて、さらなる充実を図ることが必要です。

このような経緯を踏まえ、今期の公民館運営審議会では、様々な現代的課題にも対応しつつ、市民センターの機能をさらに発揮することができるよう、「これからの市民センター事業の可能性について」調査研究をお願いいたします。

3 調査研究の進め方

市民センター事業について、視察や聞き取りを行いながら、以下の着眼点から、事業の意義や可能性（改善策など）を明らかにする。

着眼点

- ①参加者の主体的な学び・参画を促す事業内容・手法・プログラムとなっているか
- ②参加者同士の交流や地域住民・団体との協働が促進されているか
- ③地域づくりにつながる人づくりや参加者の意識・行動の変化が期待できるか
- ④現代的課題の共有・解決のきっかけとなるような事業展開がなされているか

（参考）

社会情勢の変化	仙台市・国の方向性	市民センターの方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、少子高齢化 ・国際化 ・情報化 ・震災の経験 ●コロナ禍 <p>（ ●は今回の改定で加わったもの ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ウェルビーイングの向上 ・市民参画、市民の活動の育成支援 ●こどもの参画、若者参画 ●共生社会、社会的包摂、多様性配慮 ●デジタル技術の活用 ・SDGsの推進 ・防災・減災 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学び ・多世代交流 ・地域資源 ・つなぐ役割（コーディネート機能） ・発信 ・利用促進 ●アフターコロナのつながりづくり